

## 五 神と仏の信仰

日本の国は先祖を尊ぶ風習が強く、奈良時代から平安時代にかけてたくさんのお寺ができた。平安時代にあつた佐賀地方の神社は金立神社、甘南備神社、与止日女神社、掘江神社、与賀神社、本荘神社などである。

また、仏教の方では奈良時代全国に国分寺ができ、各郡にも平均一寺が設けられた。平安時代佐賀地方にあつた寺院には雲上寺（金立町）、法勝寺（嘉瀬町）、実相院（大和町）、宝琳院（鬼丸町）などがあつた。

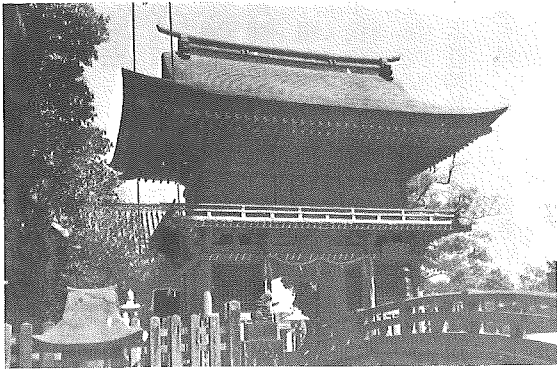
仏教が盛んになると、いつしか日本古来の神霊と一緒に信仰がはやつた。これは神仏同体説によつて、神の根本は菩薩であり、仏が仮に神の姿になつて、日本を助けにこられたという考えからおこつたものである。そのため大きなお宮には神宮寺が建てられ、佐賀地方では与止日女神社と実相院、金立神社と雲上寺（現在廃寺）、龍造寺八幡宮と龍造寺（高寺）などがそれに当たる。

### (一) 与賀神社と本荘神社

本町の前史に関係のある両社について記しておく。社名は与賀本荘の領地を二分して、それぞれの土地の開拓神として祀つたことによるとみられる。両社とも社伝によると欽明天皇の二十五年（五六四）に創建とあり、祭

神も同じ豊玉日女命を祀っている。

与賀社の社伝をそのまま現代訳すると「欽明天皇の二十五年、当地小津郷の丹二という男が、小津西郷大塚里に九月二十九日、秣刈りに出かけた折、金色に光る松と樟の二株があつた。前日までなかつたので不思議に思い、地主の小寺左衛門大輔に訴えてた。左衛門が確認すると、金色いよいよ鮮やかに光つていたので、深く喜び、ここ大塚に社を建て、塚原大明神と号した。翌年更に葦原に社を建設して、九月二十九日に遷宮、葦原大明神と崇め



与賀神社



本荘神社

奉つた。今の与賀大明神の前身である。その後左衛門上洛して、この由を奏上したところ、与止日女大明神と称せられ勅願所とすること許され、左衛門に御鞍を一背下賜された。降つて天武天皇の三年（六七五）社再興の時、本社に与止日女、彦火々出見尊、八幡宮および住吉乙宮の四柱を安置した。順徳帝の御宇建暦二年（一一二二）宮殿御造営あ

り、奉行北条義時施行す。後嵯峨帝の御宇寛元三年（一二四五）九月二十九日、執権北条経時勅命に依り祭祀の礼式を定む、後柏原院の御宇永正十年（一一五三）八月一二日正一位に叙せらるる神宣あり」とみえる。

社伝として後年編集されたもので、<sup>すべて</sup>全を信用することはできないが、永正十年八月二日付、<sup>(1)</sup>「与賀神社文書」の宗源宣言に「正一位与止日女大明神」とあり、これは史料的に裏付けられる。与止日女（淀姫）神は佐賀市の水源に当たる大和町川上にある与止日女神社の祭神であり、河流によって与止日女神社と当社とが、上宮、下宮的関係にあったのではないかと思われる。

現在、与賀神社の楼門は国の重要文化財に指定されているが、<sup>(2)</sup>『藤龍家譜』によると「文明十四年（二四八二）少貳政資が与賀城を築いたとき、当社を城の鬼門の鎮守とした」とあり、その頃この楼門が築造されたのではないかとみられる。

本荘神社の<sup>(3)</sup>社伝によると「欽明天皇の二十二年に創建、与賀荘末次村の百姓丹次郎が、童子となった淀姫神の霊を見、そのことをきいた領主小寺左衛門が欽明天皇から勅願建立の綸旨を受け、社堂を造立した」これは与賀社の社伝と殆ど同じである。この地を現在本庄というが、これは与賀本荘の鎮守神というところから祀られたもので、古くは神宮寺として本庄院が隣してあったが、寛延元年（一七四八）一二月火災で焼失している。

注

- (1) 「佐賀県史料集成」第二十一巻
- (2) 佐賀県立図書館鍋島文庫蔵
- (3) 「本荘社縁起」

## 中世

### 一 概 説

中世とは、時代区分として、鎌倉・南北朝・室町・戦国時代の約四〇〇年間をいう。

律令体制の衰微から発生した武士は、次第に勢力を得て、ついには律令体制そのものを根底からくつがえして、いわゆる前期封建社会の確立をさせた時代である。

前代からこの時代のはじめにかけ、佐嘉荘・与賀荘など多くの荘園が成立していた。これらの土地の所々には土豪たちが次第に武士化しつつ成長し、鎌倉幕府の成立と共に、地頭職を与えられて幕府の御家人となっていた。高木氏・龍造寺氏・千葉氏・小貳氏・後藤氏その他の家々である。しかし一般にこの地方の土着勢力は小規模なものが多く、室町時代末期に龍造寺氏の勢力が強大化して、西九州を制覇<sup>せいぱ</sup>し、南の島津氏、東の大友氏と九州を鼎立する三大勢力の一つとなった。それまでの間、この地方の土豪たちは、常に他国もしくは周辺の諸大勢力の影響下に置かれ、南北朝・室町時代と永い間、諸勢力の消長につれて、あるいは右に、あるいは左に、親と